

12月21日 待降節第4主日

## 神の選びを受けて

ルカによる福音書 1章 26～38節

<sup>26</sup>六か月目に、天使ガブリエルは、ナザレというガリラヤの町に神から遣わされた。<sup>27</sup>ダビデ家のヨセフという人のいいなずけであるおとめのところに遣わされたのである。そのおとめの名はマリアといった。<sup>28</sup>天使は、彼女のところに来て言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと共におられる。」<sup>29</sup>マリアはこの言葉に戸惑い、いったいこの挨拶は何のことかと考え込んだ。<sup>30</sup>すると、天使は言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。<sup>31</sup>あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。<sup>32</sup>その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。神である主は、彼に父ダビデの王座をくださる。<sup>33</sup>彼は永遠にヤコブの家を治め、その支配は終わることがない。」<sup>34</sup>マリアは天使に言った。「どうして、そのようなことがありえますか。わたしは男の人を知りませんのに。」<sup>35</sup>天使は答えた。「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを包む。だから、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる。<sup>36</sup>あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。不妊の女と言われていたのに、もう六か月になっている。<sup>37</sup>神にできないことは何一つない。」<sup>38</sup>マリアは言った。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」そこで、天使は去って行った。

他の朗読：サムエル下 7:1～5, 8～12, 14, 16 詩編 89:2～5, 28, 30 ローマ 16:25～27

### Lectio …読む

今週の福音朗読で神から遣わされるのは天使ガブリエルです。彼とナザレの娘マリアとのドラマチックなやり取りは、ルカによる福音書の冒頭に記されています。

無理もないことですが、マリアは初めこの出会いに恐れを感じ、戸惑っています。ガブリエルは彼女が身ごもり、神の子を生むと宣言します。34節におけるマリアの質問から、マリアがこのことがすぐに起こる、彼女の婚約者ヨセフと結婚する前に起こるだろう、と理解していることが伺えます。

ガブリエルはこの妊娠が特別なものであると説明します。それは神によって彼女の人生に成就する、奇跡的な出来事となるのです。神にできないことは何一つないことのしるしとして、天使は彼女の親類のエリザベトのことを話します。彼女は長年不妊の女と呼ばれていたのに、もう身ごもって6ヶ月になっていることを。

マリアは神が特別な目的のために自分呼んだのだと悟ります。「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」これが彼女の応えのすべてでした。マリアは神に全信頼を委ねたのです。

### Meditatio …黙想する

神はマリアを特別な方法で呼び、天使を遣わして彼女に語りかけます。神は私たちに呼びかける時、通常ならどのような方法をとりますか。あなたが最後に神の語りかけを聞いたのはいつでしたか。そして、どのように実行しましたか。

マリアは神の約束を信じ、それが実現することを疑いませんでした。マリアの応答から私たちは何を学ぶことができるでしょうか。

神の呼びかけに応えることは、マリアの人生に重大な影響を及ぼしました。神のあなたへの呼びかけは、どのようにあなたの人生を変えましたか。

福音書に記されている処女懐胎は、ある人たちにとって受け入れがたいものです。37節の言葉は、私たちがこの疑問に答える助けになるでしょうか。

## Oratio …祈る

今日の朗読箇所である詩編 89 編 2～5 節は、神の愛と誠実さについての素晴らしい賛美です。神があなたへの愛をどのように表現しているか考えてみましょう。あなたの人生において神はどのようにあなたへの誠実さを示してきたでしょうか。5 節にある約束はイエスについて述べられているものですが、同時にそれはイエスを主として受け入れる人すべてに約束されているものです。感謝のうちに神に応え、あなたの信仰と神への信頼が深まるように願いましょう。

## Contemplatio …観想する

今日の他のふたつの朗読箇所も、ガブリエルのお告げに光を当ててくれます。サムエル記下 7 章で、何百年も前の預言者ナタンを通して告げられたダビデへの神の約束は、マリアの子に成就します。

第二朗読はパウロのローマの信徒への手紙の終わりの箇所です。良い知らせを示し、人類の歴史の主である神への賛歌の祈りです。これらの言葉を、神への栄光を称えるあなたからの賛歌として歌いましょう。